



!! 🐄 🌻 **今回は酪農家4名の皆さんにやりがいと、未来につなげたい想いを伺いました!!** 🐄 🌻 !!

## 一の竹 太田牧場

太田 雅人さん

～堅実に学び続け

牛の力を最大限に引き出す

趣味

家族と遊ぶこと

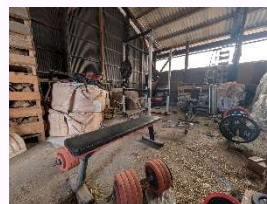
読者

筋トレ

情熱家～



こだわりのファームハウス



飼料庫兼ジムスペース



お母さんの素敵な作品

### “自分らしい働き方”を叶える酪農ライフ

会社勤めとは異なり、自分の裁量で働ける酪農業の魅力、そして家族との時間を大切にしたいという思いから、太田雅人さんは酪農の道を選んだと話します。現在は乳牛70頭を飼育し、搾乳は朝4時と夕方4時に行っています。作業の間には飼料庫で筋力トレーニングを行うなど、体づくりにも励んでいます。現在のベンチプレスの最高重量は125kgで、140kgを目標に掲げ、日々挑戦を続けています。

作業スケジュールを工夫することで、忙しい日々の中でも家族との時間をしっかり確保し、自身のライフスタイルに合った「自分らしい働き方」を実現しています。数年前に建てた、こだわりが詰まった「ファームハウス」には、仕事の後に心からくつろげる工夫が随所に施されています。

また、牛舎の周りには、お母さんが手がけた絵画などの作品が飾られ、牧場の風景に豊かな彩りを添えています。畑におばあちゃんが立つと、子どもたちが自然と集まって手伝い始めるなど、家族経営ならではの温かい光景が、日々の暮らしの中に広がっています。

### “こだわり”と“学び”で高みを目指す酪農経営

乳牛の個体能力を最大限に引き出すため、高品質な飼料の選定や徹底した栄養管理に力を注いでいます。また、酪農関連の書籍や海外論文を読み、各種セミナーにも積極的に参加するなど、常に最新の知識を吸収しながら生産性の向上を図っています。「勉強とトライ・アンド・エラー」を繰り返すことで、牛が持つ生産能力を最大限に引き出し、その成果が利益として表れることにやりがいを感じています。

現在の平均乳量のベストは43kgです。将来的には2回搾乳で100ポンド(約45kg)を目標に掲げ、「その過程も楽しみながら取り組んでいきたい」と話します。知識と実践を着実に積み重ねながらより良い経営を追求し続ける姿勢が印象的でした。



### 親から受け継いだ酪農の道を夫婦で歩いて8年

長く酪農を続けてきた実家の仕事を、自然な流れで受け継いだ熊谷昌子さん。

現在は、和牛を含む40頭を家族全員で協力しながら飼育しています。搾乳は熊谷桂さんが朝5時から、昌さんが7時から担当し、日中の作業はその日の状況に合わせて柔軟に進めています。

桂さんが会社勤めを辞めてから8年。毎日の暮らしの中には新しい発見があり、充実した日々を送っていると話します。機械が故障した際には息子さんが修理を手伝うなど、家族の支えが大きな励みになっています。

また、富士宮市での酪農最長年齢が83歳という話を聞き、「私たち夫婦もその記録を更新したいと思っています!」と笑顔で話しています。

### 子牛を守る丁寧なケアと、地域と歩む酪農のかたち

生まれたばかりの子牛には、健康に育つよう「5分以内に初乳を飲ませる」ことを徹底。寒さ対策としてカーフジャケットを着せるなど、細やかなケアを欠かしません。『ひらく VOL.12』で紹介した「手作りカーフジャケット」を参考に、自作したものを活用しています。

さらに、堆肥やふん尿のにおい対策など、地域住民との共生は酪農における重要な課題です。環境に配慮した酪農を心がけ地域とともに歩む姿勢が感じられました。

酪農のやりがいについて何うと、「日々の積み重ねが、牛の成長や成果として返ってくる」と話しています。これから酪農を始める人には「周囲に合わせすぎず、自分のペースを大切に」と温かなメッセージを送っています。

近年はドローンを導入し、畑の観察や脱柵対策、サイレージ作業の安全確認などにも活用。新しい技術も積極的に取り入れながら、家族とともに「自分たちらしい酪農」を未来へつないでいく姿がとても印象的でした。

## 広見 熊谷牧場

熊谷 昌子さん



～家族の力で未来へつなぐ

熊谷さん夫婦の自分たちらしい酪農家～

趣味

裁縫

着物をリフォームして作業服や帽子、エプロンを作る予定

手作りの表札



## 富士丘 富士丸西牧場

佐々木 剛さん

～朝霧を守り 牛と歩む

子どもたちへ牛乳の魅力を届ける

熱意あふれる酪農家～

趣味

ゴルフ

カヤックも挑戦したい



放牧の様子

### 自然に選んだ酪農の道で築く、丁寧な牛づくり

気づけば自然とこの道に進んでいたと話す佐々木剛さん。サラリーマンとして働く友人の姿を見て、自分が同じ道を選んでいたらどうだったのかと思うこともあるそうですが、酪農を選んだことに迷いはないと話します。現在は乳牛約180頭を飼育し、搾乳は朝5時と夕方4時に行っています。放牧を取り入れ、牛の運動不足やストレスを軽減しながら、削蹄や搾乳前には、ケガをしていないかをチェックするなど、日々の健康管理を丁寧に行っています。牛舎ではベッドメイクやエサ押しを手作業で行い、牛が快適に過ごせる環境づくりを大切にしています。

### 次世代につなぐ朝霧の酪農

厳しい情勢の中でも、「朝霧の美しい景観を次世代へつなげたい」という強い思いを持っています。一方で、業界全体では円安による資材高騰などの影響を受けている現状があり、今後JA富士伊豆と連携しながら東部地区の酪農協を進めることが重要だと捉えています。

また、昨年は約20ヶ所の小学校で「学校給食牛乳講座」を開催し、牛乳のおいしさや牛の育ち方を子どもたちに伝える活動にも力を注いでいます。こうした取り組みを通して、地域とのつながりや次世代へつなぐことを大切にしています。

新しく酪農を始める人には「まずは土台づくりが大切」とアドバイス、「設備は購入ではなく借りて始めることで変化に柔軟に対応できる」と話しています。後継者には「まわりをよく見ることを大切にしてほしいと、「親だけでなく多くの人の取り組みに触れることで視野が広がり、それが自身の成長につながる」と話しています。酪農経営という大きな仕事と、暮らしを楽しむ心を忘れない姿勢がとても印象的でした。



富士宮市の根南小学校で3年生約140名を対象とした「牛乳講座」



「己書」道場師範の奥さんの作品

## 荻平 (株)Graceland

関内 慎介さん

～地域と酪農の未来を切り拓く

多角経営と人材育成に

挑戦する酪農家～

趣味

きれいな景色の撮影

ドライブ



### 高校時代に気づいた“自分は酪農がやりたい”という思い

高校時代は「食品流通科」に進学した関内慎介さん。学びを重ねるうちに、「なぜ畜産科を選ばなかったのだろう」と思うほど、酪農への思いが強くなっていったと話します。その気持ちはやがて揺るぎないものとなり、卒業後は迷わず酪農の道へ進みました。現在は乳牛約70頭を飼育し、搾乳は朝4時と夕方5時に行っています。「大変ではありますが、自分が本当にやりたいと思った仕事ができている実感があります」と話しています。

### 多角経営で広がる農業の可能性

酪農に加えて、ドローン事業・農薬散布・インストラクター活動など、多方面での挑戦を続けています。ドローンは牧草の生育状況の確認や牛の逸走対策、サイレーン作業時の安全確認などに活用。さらに年間100ha規模の農薬散布を行うなど、確かな収入源としても成長しています。「一次産業一本では厳しい時代です。だからこそ、自分たちにできることを増やしていきたいと思っています」と話す姿勢は、地域農業の新しい可能性を示しているように感じました。

また農林系学生の実習受け入れにも力を入れ、「酪農の面白さ・責任・やりがい」を自らの言葉で伝えることを大切にしています。日々書きためた文章は600ページを超え、その言語化の積み重ねは、若い世代に強い刺激を与えています。

### “現場を知る”ことが信頼につながる — 農協職員との連携

酪農家をサポートする農協職員のスキルアップにも期待を寄せています。「机上の知識だけではわからないことが多く、現場を体験して初めて見えることがある」と話し、農場HACCPの勉強会への参加や、農薬管理指導士といった資格取得を積極的に促しています。

「農協職員が現場とともに成長する姿」は、多くの酪農家が求めているものでもあり、地域の酪農と農協のより良い関係づくりに向けた大切な提案として強く受け止めました。多角的な挑戦と人材育成にかける思いから、地域酪農の未来を切り拓こうとする強い意志が印象的でした。



お気に入りの1枚!!

